

もっと豊かに暮らしたい

G-NET じーねっとしが

滋賀県
男女共同参画
情報誌

vol.23
2012 秋号

「G-NETしが」とは…

滋賀県立男女共同参画センターの愛称で、「Gender-Network しが」の略。
ジェンダー問題を見据えて、男女共同参画のネットワークを広げていこうという思いをこめたものです。

特集 男性の「生き方」「働き方」

①「男性にとつての男女共同参画の意義」

～さんかく塾 関西大学 多賀教授の講義より～

②「ファザリング・ジャパン滋賀の取組」

～パパと子どもの里山体験セミナー～

③「男性の家事・育児参画フォトコンテスト」



茶亭にて



大ホールでの講演



研修室での講座



チャレンジショップ (ランチスペース)
「はじめまして」
スクラップブックのお店



図書室の特設コーナー

Shiga Prefectural Gender Equality Center

滋賀県立男女共同参画センター

G-NET しが じーねっとしが

特集 男性の「生き方」「働き方」

特集① 「男性にとっての男女共同参画の意義」

男性が様々な「生きづらさ」を抱えて苦悩している現在。

従来の「男はこうあるべき!」「女はこうあるべき!」という固定的な「枠組み」にとらわれるような社会は、女性ばかりでなく、男性にとっても様々な生きづらさを生み出しています。

今回は、多賀 太教授（関西大学文学部）の「さんかく塾【課題編】」での講座の中から、「男性自身の生きづらさ」と「男性にとっての男女共同参画の意義」の関連について、そのポイントを紹介します。



多賀 太 教授

生きづらさを抱えている男性たち

男性は「男が稼がなければ! 支えなければ!」というような、女性とは違った意味でのプレッシャーを受けていて、それが男性自身の生きづらさにつながっています。また、そのことが巡りめぐって女性自身の生きづらさを生み出しています。

男女共同参画の理念を、男性も意識していくことで、もっと安心していきいきと暮らしていくことができます。男性にとっても男女共同参画は意義のあることなのです。

「働きすぎ」な日本人男性

世界的に見ても日本人男性の労働時間は非常に長く、仕事の責任が重くのしかかっています。働き盛りの男性は週に平均50時間働いています。また、5人に1人は週に60時間以上働いています。週に60時間以上働くと、小さな子どもがいる家庭だと、子どもが起きている時間に家に居られません。寝顔しか見られません。

もちろん労働時間だけではないのですが、長時間労働が、過労や過労死に結びつく、また、育児をしたいのにできないという状況につながります。

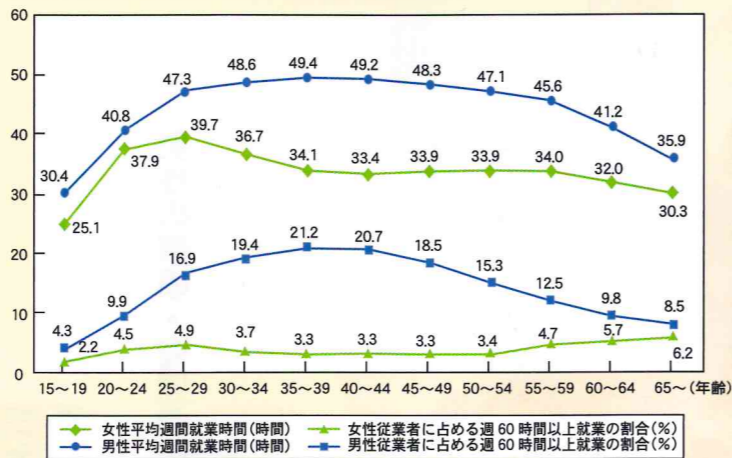
まだまだ、日本の男性は仕事中心で家事・育児の時間が少ないのですが、以前と違って、男性も仕事と家事・育児の両立に悩み始めています。家事・育児を女性任せにしても、家事や育児に参画したいと考えている男性も増えています。このようなことから、ワーク・ライフ・バランスを実現できるような環境づくりが大切になってきているのです。

今、職場の環境はどんどん厳しくなっています。かけ声だけ「ワーク・ライフ・バランス」と言われても、個人の努力だけではどうしようもない問題です。労働政策も含めた、社会が一丸となった取組が必要です。



さんかく塾【課題編】より

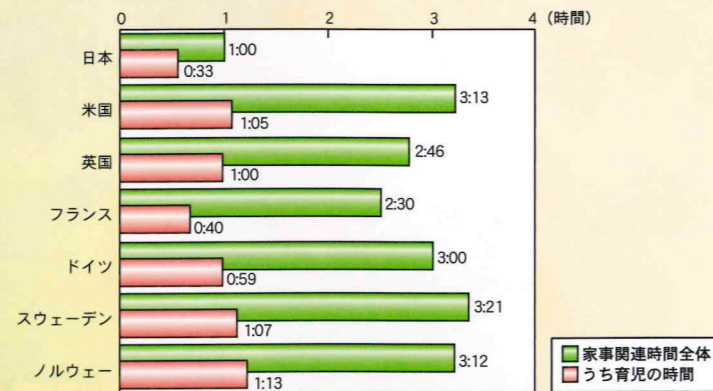
性別年代別就業時間（非農林業）



(備考) 総務省「労働力調査」(平成19年)より作成。

平成20年版男女共同参画白書(内閣府)より

6歳未満児のいる夫の家事・育児関連時間(1日当たり)



(備考) 1. Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004). Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use. Survey Summary" (2006). 及び総務省「社会生活基本調査」(平成18年)より作成。
2. 日本の数値は、「夫婦と子どもの世帯」に限定した夫の時間である。

平成23年版男女共同参画白書(内閣府)より



さんかく塾【実践編】より

高齢期男性の生きづらさ

生命保険各社の営業・金融の専門家をつくるMDRT日本会が実施した調査(2006年)によると、夫の退職後に夫婦の時間が増えることに、「うれしい」は、夫の48%に対し、妻は27%、「うれしくない」は夫の16%に対し、妻は32%という結果でした。このことは、夫が仕事をしている時の夫婦の生活パターンがあまりにも違いすぎて、なかなか一緒に時間が過ごせなかったところに原因があると思われます。

また、平均寿命が女性の方が長いことから、多くの男性は、何となく、妻が自分の介護をしてくれると思っているのではないのでしょうか。今後は、妻に先立たれたらどう生きていくのかということも、男性は考えなくてははいけません。

男性は、「若いうちから生活的に自立する」「妻と仲良くしておく」「仕事とは関係ない友達を作る」「孤立しない」「精神的なつながりを持つ」等、生活上での自立をしておくことが重要です。

今、高齢期を迎えた人々には自立への支援や、仲間作りの機会を提供することが求められています。若い世代も仕事以外の生きがいを持つことが必要となってきています。

若い男性の生きづらさ

若い男性の問題で、最も深刻なのは経済的な自立がしにくくなっていることです。「男性が一家を支える」という風土がある中で、定職に就けない男性が増えてきています。一方、若者がすぐに仕事をやめてしまうということも大きな問題となっています。

男性を追い詰めているものは、男性に対する扶養期待であり、「男は結婚して家族を養うものだ」という空気が未だに強いということです。

若い男女の意識をみても、20代の男性は、結婚しても女性に働いてもらいたいという人が増えています。ところが、若い女性は、できれば専業主婦でいたいという人が多くなっています。

男女が仕事のことも家庭のこともしっかりと話し合い、ともに責任を分かち合うことが大切です。



男性の生きづらさの正体

男性の生きづらさの根本に共通するものは、「男性が頑張りすぎている」「周りも無理して頑張らせている」ということです。男性が様々な場面で中心となっている社会では、男性はしっかりしなくてははいけないというプレッシャーを受けています。

男性にとって、定職に就けて安心して一家を養うだけの稼ぎを得ることができる時代ではなくなってきています。社会は変わってきているのに、人々の意識は昔のまま「男は仕事、女は家庭」という意識が残っています。そのギャップが男性を苦しめています。

このことから、頭を切り換えていく必要があります。男女で仕事のことも家庭のことも支え合えば、男性にとっても、女性にとっても生きやすい社会になるのではないのでしょうか。

女性も男性もいきいきと暮らせる社会へ

男女が二人で話し合っ、今の生活のスタイルを考えていく、男女がともに自立した上で、相互に支え合うという視点をもって、男女共同参画を考えていくことが、これからは必要です。そうすることで、男女の対等なパートナーシップを実現していくことができるのではないのでしょうか。

男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき!?



◆平成23年度
さんかく塾生有志グループによる「湖夢ニュータウン」パネルより地域での催し、研修会や懇談会の掲示にどうぞ!(全8枚)

好評貸し出し中!
詳しくは、センターHPをご覧ください!

◎活躍するファザーリング・ジャパン滋賀のメンバー

～パパと子どもの里山体験セミナー in 比良PART II (8月5日)より～

「笑っている父親が増えれば、笑っている母親も増える、そして子どもたちも笑う。」そんなフレーズを合言葉に活動されている「ファザーリング・ジャパン滋賀」のみなさん。「ファザーリング」とは、家事や育児に「参加」するという受け身の意識ではなく、主体的に自分が「やれること」「やりたいこと」を進んでやること、父親であることを楽しもう、人生を楽しもうという考え方です。

今回は、「パパと子どもの里山体験セミナー in 比良PART II」(もちろんママも大歓迎)の様子を紹介します。

6月に種まきをした赤シソを収穫し、赤シソジュース作りにチャレンジしました。その他にも、流しそうめんや森のクラフト(竹の水てっぽう)を親子で存分に楽しみました。

ファザーリング・ジャパン滋賀の代表理事、八木雅彦さんは、「現在、職場では男性が家事や育児のために



休暇をとることが難しい環境にあります。今回のような活動を地道に続け、社会や若いお父さんたちの意識を変え、裾野を広げていくことが大切だと考えています。男性も女性も、仕事のことや家庭のことを共に協力してやっていくという環境を整えば、みんなが笑顔で過ごすことができるのではないのでしょうか。」と熱く語っていただきました。

これからの活躍が楽しみです。



男性の家事・育児参画フォトコンテスト 入賞作品をご紹介します!

ご紹介した作品以外にも、特別賞として6作品が入賞されています。入賞された作品全てを滋賀県男女共同参画課ホームページで紹介していますので、ぜひご覧ください。
ホームページアドレス
<http://www.pref.shiga.jp/c/danjo/photo.html>

滋賀県と仕事と生活の調和推進会議しがにおいて、家事や育児に積極的な男性(カジダン、イクメン)のフォトコンテストの作品を募集したところ、43点の応募がありました。このうち、入賞された作品の一部をご紹介します。

カジダン部門

【最優秀賞】
うちのクッキングパパ
山田 由紀さん(豊郷町)



【エピソード・コメント】
お料理の好きなお父さん。私や子どもたちが喜ぶ顔を見ることで、ご飯をまた作ってあげようと思うみたい。仕事の勤務時間が不規則なのに休みでもおうちにいれば、お料理してくれます。作るからには目指す味に近づけるため真剣です!娘には母ではなく、父の味を伝えようと料理指導もしてくれます。

【優秀賞】 家事はおまかせ!

川口 あけみさん(高島市)



【エピソード・コメント】
長男は子ども2人の4人家族。パパはホテルマン。午後4時からの勤務なので、朝ママが病院の仕事に出かけた後、5才と2才の食事。保育園の送り。掃除。洗たく。そして夜の食事の用意をして仕事に出かけるので、毎日大忙しです。家事は何でもおまかせ!です。

【優秀賞】 ノンストップ家事

坂居 雅史さん(野洲市)



【エピソード・コメント】
家事に休みはなく、真夏日でも首にタオルを巻き、スポンの裾をまくって汗を拭いながら掃除をしています。今回応募するにあたって綺麗な背景を写そうと考えましたが、家事と育児で慌ただしく、とてもそんな余裕がなかったので、ありのままを写しました。共働きなので、すでに家事は習慣になっていて何でもこなしています。

イクメン部門

【優秀賞】 金曜日のお迎え

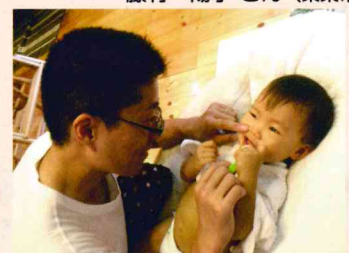
岩倉 絹枝さん(甲賀市)



【エピソード・コメント】
金曜日の保育園のお迎え。子ども2人、お昼寝布団2組、カバン2人分を持ち帰り。今週はパパの番。大きな布団袋もパパが持つと小さく見える。布団袋の重さも、握った子どもの手の小ささも、家族で共有。そんなライフスタイルのことを「イクメン!」って言うんじゃないかな。

【優秀賞】 あ〜ん、して!

藤村 陽子さん(栗東市)



【エピソード・コメント】
最近おしゃべりを始めた娘は「パパ、パパ」とよく言うパパ大好きっ子で、夫も楽しそうに育児をしています。歯磨きの仕上げは夫が「ゴロンして」というと娘は素直に仰向けになります。他にもご飯を食べさせたり、オムツ替えや寝かしつけ、もちろん一緒に遊んだりもしてくれるので、丸一日世話を任せても安心です。

【最優秀賞】 ハイ!アーンして!

戎野 毅さん(近江八幡市)



【エピソード・コメント】
思いもよらぬ双子の女の子が我が家にやってきて、あっという間に1年3ヶ月が過ぎましたね。最初の内は、お母さんもお父さんも、どうしたものやら...もうフラフラでしたが、このころは、ようやく一緒に楽しんでいるかな?でもこれどう見ても、お父さんの顔で満腹になっちゃいそう。

こんにちは、 G-NETしが推進員です!

※G-NETしが推進員とは…

男女共同参画センターの講座修了生など、地域の男女共同参画の推進に関わるリーダーです。

※しがWO・MANネット講座とは…

県立男女共同参画センターを拠点に、男女共同参画社会の実現に向けて活動している団体と、県立男女共同参画センターとが、それぞれの持ち味を活かし、協働して開催する県民向け講座です。

しがWO・MANネット講座「女性史カフェ出張編@高島」取材して ～DVDで拓く～女性の先駆者たち「市川房枝」～

滋賀県立男女共同参画センターで「女性史カフェ」を実施されている女性史くらぶが、高島市で出張編を開催しました。その様子をお知らせします。

市川房枝さんのドキュメンタリー映画鑑賞の後、「女性史くらぶ」のみなさんと高島市や草津市から参加したみなさんと、参政権についての自由な意見交換会が行われました。参加者のみなさんからは、女性が参政権を獲得した当時、「選挙の前日には髪を洗い、当日には服装を整え投票した」「投票する人の名前を覚えてもらって、その練習をしてから投票した」といった興味深いエピソードを聞くことができました。女性が参政権を得たとはいえ、その後の社会への影響、効果、政治への反映はどうか等、課題はたくさんありそうです。

市川房枝さんが目指した「選挙浄化」「政治浄化」「女性の地位向上」「世界平和」といった理想を、多くの女性たちが次世代に繋いできたということ、改めて考える機会となりました。

一人ひとりの女性が自分で考え、自分の言葉で表現し行動する力をつけていきたいものです。

「女性史くらぶ」代表 早田リツ子さんにインタビュー!

Q. 女性史を研究しようと思われたきっかけは?

A. 私は1969年に滋賀県にきました。自分自身が滋賀県で生きていく覚悟をした時に、これから住むことになる新しい世界を自分なりに理解したい、そのためには、一番身近な女性たちがどのような生活をして、どのような思いで生きてきたのかを知りたいと思ったことがきっかけです。

Q. 早田さんにとって女性史とは?

A. ある意味元気の素! 活動を続けていて、仲間や友だちができて、一緒に活動できることが、元気の素になっていますね。女性史を調べていく中で、たくさんの先輩の女性たちがいてくれた、そういう人たちがあって今があるということ強く感じられるということも、元気の素になりました。

Q. 女性史カフェに参加されたみなさんへのメッセージをお願いします。

A. 私たちの活動というのは、人と人とが対等に関わりあうという関係を作っていきましょうというのが大きな目標です。身近な場面と人どう関わっていくか、自分だけでなく、世界中にいるたくさんの仲間たちに思いをはせ、想像力を養っていきましょう。



〈参加者の感想より〉

「年齢や生活環境の違う人たちが集まって、いろいろな思いや意見を交流することで、意識を変えていけることは意義あることだと思います。」「市川房枝さんのDVDを見せていただき、一票の重み、歴史を知ることの大切さを再確認しました。」

平成24年度

「女性史カフェ」今後の日程・テーマ(予定)

11月10日(土):「主婦」誕生と子育て

1月12日(土):現在の子育てと家族



市・町に向けて発信! こんな取組を見つけました!

◆「クロスロード」体験 日野町西桜谷公民館にて

「大震災から1ヶ月経過。仮設住宅建設へ向けての毎日。これまで確保した用地だけでは、少なくとも100棟分が不足。この際、小学校の運動場も使う?」あなたはYESかNOか?

阪神淡路大震災の「実話」を基にして文部科学省が作成したカードゲーム形式の防災教育教材「クロスロード」の体験を通じて、男女共同参画社会づくりを考えるワークショップが、去る7月7日(土)日野町の西桜谷公民館で開催されました。

この「クロスロード」には、町内外から約40名が参加。6つのグループに分かれて、カードに書かれた即座の判断が必要な課題について一人ひとりがYESかNOかのカードを提示し、その理由を順番に発表し、それぞれの考えや意見を聞き、情報を共有して行きます。全ての人の意見に耳を傾け、少数意見を尊重するクロスロードの取組を通して、様々な立場の人たちの思いを大切にしながら、時には「条件付きのYES」「環境が整えばYES」といったように話し合いが進んでいきます。

実際に災害や課題に直面し、機敏な決断が迫られた時、男女双方の視点に十分配慮し、日常から備えておかなければならぬ事を改めて実感させられるものでした。

この手法は、災害だけでなく「まちづくり」や「様々な課題解決」にも活用することができます。

(主催:日野町・滋賀県立男女共同参画センター)

☆クロスロードを活用した講座の問い合わせは当センターまで



男&女ア・ラ・カルト

近江八幡市「おやじ連探訪」

～健康推進友の会編～

仕事を退職した男性たちは、家に引きこもりがちになったり、生活のことができなかったりと言われてきました。しかし、このことを返上した男性たちがいます。近江八幡市にある「おやじ連」の元祖「健康推進友の会」のみなさんです。

このグループの始まりは、近江八幡市が高齢者や退職者に呼びかけた健康講座がきっかけでした。講座の内容は、ご飯の炊き方、買い物の工夫、調理実習、調味料の学習、おもてなし料理等。メンバーはお互いに親しくなり、初めての経験を楽しみました。メンバーの、この会を継続して欲しいとの要望から、平成14年、男の料理教室を中心として「健康推進友の会」が立ち上げられました。それから10年、男性たちは月一回の料理教室に励んでいます。また、この会の料理レシピのファイルの厚さ、工夫された組織の運営システム、古封筒等文具の再利用のエコ精神には驚いてしまいました。一人ひとりの男性たちの現役時代に磨いた技が、確実に活かされていました。

男性たちはストレスから解放され、心から料理や趣味の人生を楽しんでいるようでした。



長年にわたって蓄積されたレシピファイル!

滋賀県立男女共同参画センター(G-NETしが)事業のご案内

★女性のためのチャレンジ相談★

無料相談

起業やキャリアアップ、NPO活動などチャレンジしたい女性へのアドバイスや情報提供を行います。(要予約)

〈相談日〉 毎月第2木曜日 9:00～、10:00～、11:00～
毎月第4土曜日 13:30～、14:30～、15:30～
まずはお電話ください(TEL0748-37-3751)

※無料託児有り 7日前までに要予約

★男女共同参画相談室★

無料相談

「女だから・・・男だから・・・」と差別された。夫やパートナー、恋人からの暴力、夫婦間の問題、セクハラ・パワハラなど、一人で悩まないで、まずは、お電話下さい。

◆相談専用電話 0748-37-8739

秘密は
厳守します。

◎総合相談・カウンセリング

火・水・金・土・日曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
木曜日 9:00～12:00 17:00～20:30

◎男性相談(面談)

土曜日 13:00～17:00

◆法律相談(要予約) ※無料託児有り 7日前までに要予約

★滋賀マザーズジョブステーション★

無料相談

就労に向けたカウンセリングや仕事と子育ての両立支援相談をはじめ、ハローワークマザーズコーナーもありますので、ぜひお気軽にご利用ください。

※祝日も相談できます(ハローワークを除く)

※相談の際の無料託児有り(予約不要)

◆総合受付 0748-36-1831

◆利用時間 9:00～17:00

※ハローワークマザーズコーナー

(センター休所日、祝土日を除く)(お昼12時～13時は休みです。)

★G-NET シネマ★

参加無料

～毎月1回上映しています★
詳しい内容はホームページで!

◎小学生低学年以下は保護者同伴のこと。 ※無料託児有り 7日前までに要予約

★図書・資料室から★



～男性にとっての男女共同参画～



『育児ばかりでスミマセン。』

望月 昭・著
幻冬舎 2010年

うつ病の療養生活から家事育児を一手に引き受けた男性の子育てエッセイ。妻を相棒と呼び、妻は夫を「ツレさん」と呼ぶ・・・そう、相棒とはコミック『ツレうつ』でおなじみの細川貂々さん。息子の発達が気になる子育ての日々を楽天的な相棒とは対照的に父親の苦悩を軽快に?綴る。



『それゆけ! おやしヘルパース』

東田 勉・著
講談社 2009年

還暦前後の5人のおやしたちが介護ヘルパーをめざした! 5人の介護に対する動機は様々。定年後は違うことに挑戦したい、身近な人の死、介護の資格を持つ妻の影響を受けてなど。いろいろな人との出会い、トラブル、気づき・・・介護現場で奮闘するおやしたちの姿を綴る。



『男性の「生き方」再考
メンズリブからの提唱』

中村 彰・著
世界思想社 2005年

視点や考えを少し変えてみることで男性の生き方も楽になると提唱している。著者自身が実際の社会生活の中で感じてきた男性の辛さや苦しみで理解できる内容となっている。



月刊『男子食堂』

KKベストセラーズ発行

男性向き料理雑誌。料理の基本からお酒に合う料理、パスタ、カレーなどなど簡単に気軽なものからこだわりの本格派の方にも幅広く対応している料理雑誌。当図書室でも男性の貸出が多いです!

図書・資料室の利用案内

“G-NETしが”の図書・資料室には、多くの書籍・資料をご用意しております。どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

■貸出

本は一人15冊まで(3週間)

ビデオは一人2本まで(1週間)

■開室時間

午前9:00～午後5:00

■休室日

月曜日・祝休日の翌日・年末年始・施設点検日



JR近江八幡駅下車南口より500m(徒歩10分)

または近江八幡駅南口から近江バス

「男女共同参画センター」下車

G-NETしが

滋賀県男女共同参画情報誌
vol.23 2012年 秋号

発行日/平成24年10月21日

編集・発行/滋賀県立男女共同参画センター

〒523-0891

滋賀県近江八幡市鷹飼町80-4

TEL 0748-37-3751

FAX 0748-37-5770

E-mail ct30@pref.shiga.lg.jp

H P http://www.pref.shiga.jp/c/g-net/

【開所時間】午前9時～午後9時

【休所日】月曜日・祝休日の翌日

年末・年始・施設点検日